

# EUROLINE検査

## 研究検査

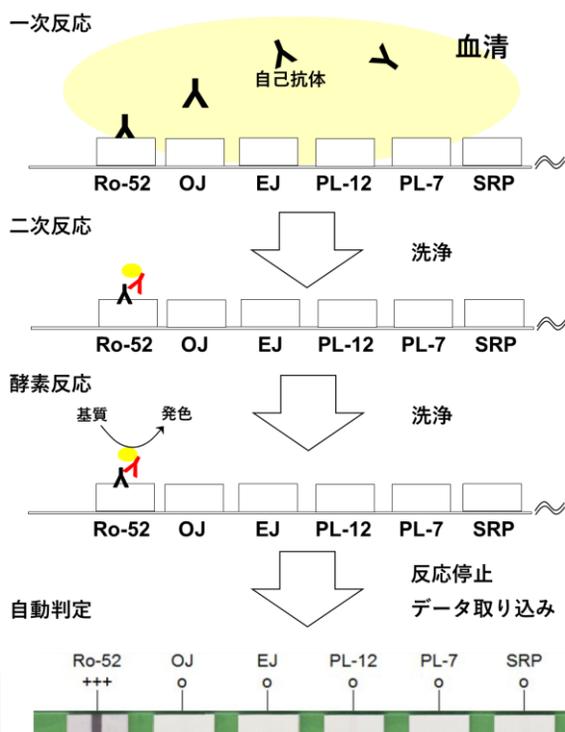
2021年10月現在

### 検査概要

検査法	イムノブロットィング法
検査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋炎関連抗体セット (Myositis profile 3)</li> <li>・傍腫瘍性神経症候群関連セット (Paraneoplastic Neurologic Syndromes 12Ag)</li> <li>・全身性強皮症関連抗体セット (Systemic sclerosis (Nucleoli) profile)</li> <li>・抗核抗体セット (ANA (anti nuclear antibody) Profile 5)</li> </ul>
材料	血清
必要量	300 $\mu$ L
保存方法	深凍結
報告形式	(-)、(+/-)、(1+)、(2+)、(3+)
最低出検数	1検体
納期	検体受領後 2週間以内

### 測定原理／提供データ

#### 測定原理



#### 報告イメージ

##### 検査報告書

検査項目名称				測定値	材料	基準値	単位	保点
年齢	性別	氏名	施設名	検				
妊娠		患者ID	担当	先生				
採取時刻		カルテNo	科名					
食事	採取日	年月日	病棟					
透析情報	受付日	年月日	セット					
検査材料	血清	報告日	年月日					
	尿量		mL/					
	検体No.							
筋炎関連抗体セット								
MI-2		(-)						
KU		(-)						
PM-SCL100		(-)						
PM-SCL75		(-)						
SRP		(-)						
JO-1		(-)						
PL-12		(-)						
OJ		(-)						
EJ		(-)						
RO-52		(3+)						

例：筋炎関連抗体セット (Myositis profile 3)

# EUROLINE検査

## 筋炎関連抗体セット (Myositis profile 3)

測定項目：Mi-2, Ku, PM-Scl100, PM-Scl75, Jo-1, SRP, PL-7, PL-12, EJ, OJ, Ro-52

炎症性筋疾患は4つの病型に分類されており、頻度は異なりますがいずれの病型でも自己抗体の産生が報告されています。多発性筋炎で検出される抗Jo-1抗体、抗SRP抗体、皮膚筋炎で検出される抗Mi-2抗体などをスクリーニング検査することができるため、病型を分類する場合等に有用です。

## 傍腫瘍性神経症候群関連セット (Paraneoplastic Neurologic Syndromes 12Ag)

測定項目：Amphiphysin, CV2, PNMA2(Ma2/Ta), Ri, Yo, Hu, Recoverin, SOX1, titin, zic4, GAD65, Tr(DNER)

悪性腫瘍患者の中でもPNSの発症は非常にまれなケースですが、腫瘍の発見に先行して神経症状が出現することがあるため、腫瘍の早期発見マーカーとして有用です。

## 全身性強皮症関連抗体セット (Systemic sclerosis (Nucleoli) profile)

測定項目：Scl-70, CENP A, CENP B, RP11, RP155, fibrillarin, NOR90, Th/To, PM-Scl100, PM-Scl75, Ku, PDGFR, Ro-52

全身性強皮症は、皮膚および内臓諸臓器の線維化を主徴とする疾患で、90%以上の高率で「抗核抗体」が検出されるため、SSCは自己免疫疾患に位置付けられています。Scl-70抗体、抗RNAポリメラーゼⅢ抗体（びまん皮膚硬化型全身性強皮症抗）、抗セントロメア抗体（限局皮膚硬化型全身性強皮症）がスクリーニングできるため、病型の分類に有用です。

## 抗核抗体セット (ANA (anti nuclear antibody) Profile 5)

測定項目：nRNP/Sm, Sm, RNP70, RNPA, RNPC, SS-A, Ro-52, SS-B, Scl-70, PM-Scl, Jo-1, CENP B, PCNA, dsDNA, nucleosomes, histones, ribosomal P-proteins, AMA M2

抗核抗体は健常人でも20%ほど陽性反応を示しますが、膠原病の多くの患者で陽性反応を示すといわれています。スクリーニング検査は一般的に間接蛍光抗体法（IF法）が普及していますが、抗核抗体の有無は技術者（人）が判定しています。一方、当測定法のANA Profile 5では抗核抗体の有無を機器が判定するため、IF法よりも客観的なデータを取得できます。データの客観性が高いことから、臨床経過の継続的な観察や治療効果の判定等の場合に有用です。

お問い合わせ



**KPSL**

九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1  
九州プロサーチ有限責任事業組合  
<https://kpsl.jp/>